

夏の日差しを感じる季節になりました、いかがお過ごしですか？  
昨年末から新潟・福岡など日本各地で大きな地震が続き、改めて  
わが家の地震への備えは大丈夫かどうか考えさせられました。  
いざというときに備え、家族と話し合っておきたいものです。  
皆様のお宅では震災への備えは十分でしょうか？

わが家は大丈夫？と気になったら、まずは

★ 地震に強い家にするために vol.1 ★

Step1 住宅の耐震性を知る

状況の把握：どこが弱点なのか？

- 耐力壁が少ない 昭和56年以前に建てられた木造建築
- 壁の配置は偏っていないか？
- 接合金物が使用されているか？
- 木材の腐敗、白アリ被害発生はないか？
- 間取りや家具の配置から震災時に危険な場所はないか？

耐震診断

わが家の弱点に不安を感じている方はご自分で簡単にできる「誰でもできるわが家の耐震診断」をお勧めします。ご希望の方はご一報下さい、ご自宅に郵送致します。自分でチェックした結果、更に正確な診断がご希望であれば弊社では建物を調査した上で「壁量」「偏心率」などを検証し改修の必要性や危険度をお調べします。

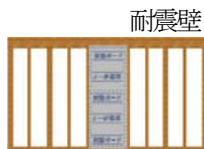
Step2 耐震性を確保する

耐震改修計画

- 耐震診断を基に耐震改修の計画設計を行います。
- リフォームなどを機に住宅の耐震性を強化するの一案です。

耐震改修

- 耐震改修計画・設計に基づき耐震改修を実施します。



プラス +

耐震性の維持・向上

- 改修後も家のメンテナンスは大切、特に湿気は大敵です。日常の住み方に配慮し家の老朽化を防ぎ耐震性の維持を心がけて下さい



床下換気口をふさぎ  
空気通りがわるくなる



外壁のひび割れから  
雨が染み込んでゆく



雨樋が詰まると隙間  
から雨水が染み込む

- 近年は家の断熱化が進み家の内側からも結露します。換気を十分行い室内の湿度に気をつけましょう。

安心な？新築住宅、耐震改修後の家、マンション住まい

でも本当に 準備は万全ですか？

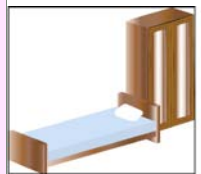
待ったなしの地震対策、いざ地震が発生したとしても被害は最小限に抑えたいもの。その為には家の耐震性を高めるだけでなく生活上の工夫や注意も欠かせません。

あなたの家ではどんな対策が必要ですか？

Step3 居住空間の安全性を高める



- 家具の固定は比較的簡単にできる対策です。衝撃吸収性のある粘着シートなどを家具などの前方下部に敷くのも有効です。



- 居住時間の長い居間や寝室には家具や家電の位置に気を付け倒壊に対応しましょう。

※次回も引続き、最新の地震対策と利用できる補助金などについてご案内する予定です。

—ご相談がございましたら、気軽にお問い合わせください—

一級建築士事務所 n設計工房 株式会社 西村工務店

〒657-0823 神戸市灘区天城通1-5-20

フリーダイヤル 0120-86-7440 E-mail nisimura@col.hi-ho.ne.jp